

第43回 全国日本病院学会

平成13年10月20日 於)ラフレさいたま

「肝障害における養生片仔癆の効果について ～特にC型肝炎について～」

医療法人東明会 原田病院

原田雅義、矢内原昇、F. Marotta、由島一郎、清水秀之、細川勝正、辻美隆、原田圭明、謝心範

• 目的

我が国において肝癌の死亡率は年々増加し、遂に全癌統計中、男子は3位、女子は4位と増加している。C型肝炎から肝癌の発生率は、B型肝炎の3倍といわれている。現在C型肝炎の特効薬はインターフェロンであるが、日本人は sero-type I (70%)、sero-type II (30%)、であり、70%を占めるI型には効果が少ない。C型肝炎治療の最先端といわれている病院でもインターフェロン不適の症例に、強力ネオミノファーゲンC、ウルソ等をただ漫然と投与しているのが現状である。そこで我々は、『養生片仔癆』(漢方養生食品)について数年前より投与・検討した。

• 対象・症例

平成10年4月から平成13年6月までに扱った肝疾患195例につき【ウイルス性:180例(92%)、アルコール性:7例(4%)、脂肪肝:6例(3%)、自己免疫性2例(1%)】につき『養生片仔癆(田七、田七杜仲精、黄精、甘草)』を投与し、投与前・後の肝機能の経過につき測定観察を行った。

測定項目は、【①肝機生化学的検査、②一般血液、③ウイルス量(HBV-DNA、HCV-RNA) ④4型コラーゲン、⑤CT, echo, etc.】また、年齢、男女別、養生片仔癆投与までの病歴年数、投与期間、1日の投与量、効果、副作用等の総計的観察を行った。

• 結論

195例の各種肝疾患患者のほとんど全例に著明なGPT値の正常化が10～14日間で認められた。

今後の検討課題として、【①副作用の有無、②特にC型に対し、インターフェロン投与前後の併用、③生検の症例の検討】が挙げられる。